

平成23年度

学校自己評価表（年間評価）

学校運営計画					
学校運営方針	1 単位修得の支援体制の整備と具体化 基礎学力の定着、履修率・修得率の向上、定通併修制度の充実 2 豊かな心を育む教育の充実と具体化 自律性の育成と規律の維持、教育相談の充実、人権・同和教育の実践 3 キャリア教育の充実と具体化 社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成				
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標			
・丁寧な学習指導や生徒指導の実施を行ったが基本的な生活習慣の確立など継続が必要である。また、多様な生徒への対応について工夫・改善していかねばならない。 ・生徒の基礎学力定着や学習意欲向上に取り組んだ。今後も外部機関や地域との連携を深め活動の工夫を図りたい。 ・教育相談に係わる職員研修により生徒理解についての知識と技術を得た。この成果を生かして充実を図りたい。 ・企業見学やインターンシップなどを通して、キャリア教育を行った。進路未決定者が少なくなるよう、体系的組織的な活動を強化したい。	・基本的生活習慣確立を目指し、生徒と教員間の信頼関係作りと問題行動防止のために生徒指導部と各年次との連携を密にする ・関係諸機関との連携を通して、安全教育に配慮する ・生徒会・クラスでのクラブ活動・ボランティア活動等を通じて学校生活を豊かにする	・生徒指導部と各年次が連携して注意喚起と情報提供を行い、事件事故の未然防止に努める ・校内外巡視や立番で生徒への声かけをし、きめ細やかな指導を行う ・挨拶励行や身だしなみを正し、規律ある明るい学校生活を築く ・交通安全指導を行う ・クラブ活動活性化やボランティア活動を進める			
	・多様な生徒を理解し支援するために、全職員が教育相談に関する知識と技術を持ち実践するように努める ・特別支援が必要な生徒の指導の充実を図る ・人権、同和教育を推進する	・保健部と単位制高校活性化相談員を中心に、職員へ助言や研修を進める ・特別支援が必要な生徒の支援を行い関係諸機関と連携を図る ・教育活動全体を通して自己理解・他者理解を深め、人権意識を培う			
	・キャリア形成に必要な意欲、態度を育てる ・地域の特色を生かした活動や体験活動等を通して生徒の自尊感情や自己肯定感を高める工夫をする	・キャリアガイダンス部が中核となり、進路希望達成のための体系的キャリア育成を実施する ・就業体験やインターンシップなどの活動を通し社会人として必要な諸能力を育成し、生徒が主体的な活動を行うよう工夫する			
	・丁寧な学習指導や体験的な学習活動を通して基礎学力定着や学習意欲向上を図る	・学習指導を通し基礎学力定着、主体的学習を支援する活動を行う ・学校設定科目等を通して生徒の学習への興味・関心を高める			
重点目標	具体的目標	具体的方策	B評価基準		評価
基本的な生活習慣の確立	挨拶や身だしなみを正し、規律ある明るい学校生活を築く（生徒指導）	生徒と教員間の信頼関係の充実を図り、問題行動の未然防止に努める。また、登校指導・校内巡視において生徒の様子を把握する	問題行動による指導対象者の延べ人数を80人未満	B	B
		基本的生活習慣の確立、規範意識の向上を図り、事件事故の未然防止を目的として「MY LIFE」(学校新聞)を発行する	月1回発行	A	
	バイク等通学者への交通安全指導（生徒指導）	自動車・バイク通学者を対象とした実技講習会を年2回実施する	講習会出席率を85%以上	A	A
学校生活の明確化（1・2年次）	学校環境の構造化を意識し、生徒の混乱を予防する。保護者・外部機関との連携強化	休学者を除き、出席率70%	B	B	
多様な生徒支援	生徒支援のための教職員のレベルアップを図る（保健）	職員のニーズに応じた校内研修を実施する	研修会を年2回実施する	B	B
		相談室（保健部）と各年次の連携を強化するため、情報交換や検討結果を各年次へフィードバックする	相談室の情報交換を月2回実施する	B	
	特別支援教育を充実させる（保健）	支援の難しい生徒について事例検討会を実施し、よりよい支援のあり方を模索する	年間3例以上の事例検討を行う	B	B
		キャリアガイダンスや外部機関と連携し就労支援を	年間2例の支援を行う	B	

		行う				
キャリア形成の意欲、態度を育成	生徒の進路意義の啓発（キャリア・3・4年次）	進路ガイダンス、講演会、企業見学、インターンシップ等の実施や「進路だより」の発行を通じ、自己を見つめさせ、進路意義の高揚に努める	キャリア教育の各種プログラムへの出席率を75%以上とする	A	A	B
	生徒の適性に合った進路選択の支援（キャリア・3・4年次）	個別指導を通じ、進路相談の充実を図り、適性や希望を把握し積極的に新規職場の開拓を行う	卒業予定者の進路決定率70%以上とする	B	B	
		進路相談支援員を積極的に活用し、早期に面談や職場見学を実施し、進路実現を目指す				
		特別支援を必要とする生徒に対して、外部の支援機関との連携強化を図り、進路実現を目指す				
		校外模試を計画的に実施し、結果を分析する	大学、短大、専門学校等を希望者の合格率を90%以上とする	B	B	
進学説明会やオープンキャンパス等に積極的に参加させ、進路実現を目指す						
基礎学力定着、学習意欲向上	わかりやすく身近な教材を工夫し、年間指導内容を蓄積する。（教務）	シラバスをもとに、わかりやすい補助教材や体験的な学習の工夫を進め、年間指導計画の中に位置づける	アンケートで、生徒の65%が興味関心を持ち授業に取り組んでいる	B	B	B
	学習意欲の向上を図る（国語）	生徒学習意欲を喚起するような取り組みやすい教材プリントを工夫する	各種課題等の提出率80%以上	B	B	
		生徒が授業の中で、自分の考えをまとめられるような発問の仕方や、授業展開を工夫する	80%の生徒が授業者の問いかけに反応できる	B		
	基礎学力の向上をはかる（地公）	補助プリントや資料、視聴覚教材などを利用して、わかりやすい授業を目指す	生徒の授業理解度70%以上を目標とする	B	B	
		学校設定科目での授業内容や実践方法を工夫して、生徒の興味を引く授業を展開する	自主作成教材活用の割合を80%以上を目指す	A		
	生徒一人一人が意欲的に取り組むようにする（数）	習熟度別少人数授業の利点を生かして、個々の生徒に適した教材を提供し、興味の喚起や課題完成時の達成感を味わわせる指導を実践する	授業アンケートにおける生徒の満足度が60%を上回る	B	B	
	自ら積極的に学習に取り組む態度を培う。基礎・基本の定着を図る。（理）	開講科目のシラバスをもとに、わかりやすい補助教材などを用いて、基礎学力の定着を図る	考查を受験した生徒のうち60%が欠点を取らない	B	B	
		実験や演習実験、体験的学習の工夫をすすめることで、生徒の興味関心を引き出す授業の実践を行う	生徒の60%が興味関心を持ち授業に取り組む	B		
	体力の増進とスポーツに必要な運動能力の伸長を図る（保体）	生徒の体力、学力を踏まえた指導を心がけ、各運動、スポーツを通して、最後まであきらめないでやり遂げる心を身につけさせる	学校体操70%以上の習得	B	B	
	基礎的な技術の習得と表現と鑑賞に活用する能力を養う。（芸術）	個々に応じた教材を工夫し、基礎技術の習得と定着を図る	基礎技術の習得率60%以上	B	B	
豊かな感性を育むため、鑑賞の内容を充実させる。また自己表現の場として校内での作品展示または発表を行う		受講生徒の60%以上が作品を発表又は展示する	B			
基礎学力の定着を図る（英語）	「翠江生の英単語850」をもとに、月1回単語テストを行う中で、生徒が苦手意識を克服し、やる気を出し、達成感を得られるようにする	1年次全体の平均点9点（20点満点中）を目指す	B	B		
基礎基本の習得（家庭）	自立に向けて、基礎的基本的な知識と技術を習得させ、実生活に生かそうとする意欲と実践する能力を身につけさせる	年間授業時数の5/10以上を実験実習に当てる	B	B		

基礎基本の徹底、 生徒の実態に応じ た教材の精選 (商業)	授業の中で、検定試験に対する意欲づけを日常的に 図る	検定取得を目的とした補 習へ受講生の25%以上 が出席する	C	B	
	きめ細かい指導と各種検定前の補習を適宜実施する				
	分かる授業を創造する教材(新聞等)の工夫を心が け、資格取得のための指導の徹底を図る	各種検定合格者を受講者 の35%以上を目指す	B		
	生徒一人一人をしっかり把握し、個に応じた指導を 行い、授業の効率を高める				
情報活用能力の育 成を図る。(情報)	PCや携帯等の情報端末機器を利用する際に情報モラ ルを踏まえた適切な判断が出来るようにする	受講者の90%以上が PCを活用し、プレゼン が出来る	B	B	
	PC等情報機器の活用を基に情報を受信・処理(加 工)・発信する能力を高める。				
成果	<p>全体としては、当初の目標に対して各分掌・学年・教科では一定の成果を上げることができたが、下記のような課題が課題・成果が上げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務 さまざまな生徒の実態に即し、生徒が参加できる年間授業計画を立てたが基礎学力定着をはかることには課題がある。生徒の学習・生徒理解・進路の一貫した指導を推進するための方策を検討する必要がある。生徒の在籍年数の上限を設定した。</li> <li>・生徒指導 全校集会での身だしなみ指導を行い、学校全体で取り組むことができた。担任の協力により、問題行動による指導対象者が減少した。</li> <li>・キャリアガイダンス部 外部支援機関との連携の強化を図る。新規取組は、卒業後にひきこもり傾向にある生徒が、「地域若者サポートステーション」(厚生労働省委託事業)へスムーズに活用できるように、キャリアカウンセラーによる就労に向けた誘導・支援を展開した。来年度からは、1・2年次にも対象を広げ、早い段階から就労へ向けた支援を実施すべきである。</li> </ul>			総合評価	B

1 A～Cの評価基準は下記の通り

- ・ B評価基準を余裕をもって満たしていると判断できる場合はA
- ・ B評価基準を満たしていると判断できる場合はB,
- ・ B評価基準を満たしていないと判断できる場合はC,